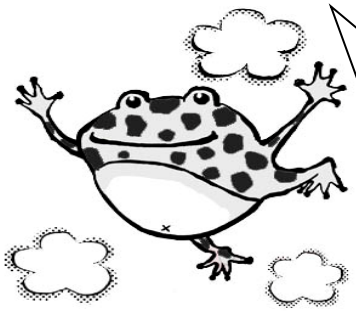
かえる便り 29年度9号

平成２９年５月３１日

暑い日が続きますが、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

人は、誰も自分自身に“問いかけ”をしています。その問いかけの数は一説によると一日に万を超えるそうですよ。自身を伸ばすかどうかは、問いかけの内容や質によると考えられませんか？『こうすると良いのか』　『いや、ここをこのようにすると出来るのでは』　また、『これは何と読むのだろうか』などといった問いかけをしていますよね。しかし、問いかけをしても、そのままにしていて実行しなければ何の意味もなくなります。物事は　思う・創造　することから始まりますが、　実行して実力　を高めないと成功しません。



私は山登りが好きですが、山に登るためにはそれなりの準備が必要です。山の標高や難易度、季節によって準備するものが違います。
山登りや旅行を計画し日取りが決まったら、気分は未だ見ぬ先の光景を描き高揚することがよくあります。しかし、様々なことを想定して準備をしたとしても、自分の力を高めていないと無駄になります。

下記はある生徒の総体反省です。彼のノートより抜粋しました。

『メンバー、ベンチには入れたけれど出られなかった。それがただ悔しかった。凄く悔しかった。まだまだなんだ。もっと実力をつける。まだ努力が足りない。
試合に出た人がうらやましかった。悔しくてしかたがない。絶対に追いついてやる。努力は裏切らない。この言葉は小さいころから、結構言われてきた。その言葉通りだなと思った時も何度もあった。しかし、そうでないと思った時も何度もあった。それは、相手の方が努力している。相手よりも努力が足りないのだと思った。だから、もっと頑張らないといけない。もっと追い込まないといけない。自分で絶対に限界を決めない。自分には才能なんてない。だからこそ努力しかない。』

ベストを尽くした。

ただ、それ以上にベストを尽くした人間が一人いた。

ゴルフの帝王と言われた　ジャック・ニクラスの言葉です。凄い努力と研究をして“帝王”になった素晴らしい人物と同様な考えをしています。私も負けないよう努力をしなくてはならないと痛感しています。